

フィールドワーク室戸コース(3/6) 「私自身も無関係ではない話し」

「15歳から船に乗って『かしき』の仕事をした」



フィールドワーク室戸コースには元漁船員と遺族も含め、41名が参加しました。

参加者には、高知大生や若い教職員、自治体労働者など青年学生の参加も多くあり、元漁船員と遺族のみなさんを励まし、「ビキニ事件」を次世代とともに学ぶ貴重な機会となりました。日帰りのフィールドであったことから今度は一泊二日での要望も出されました。

- 「参加したことをきっかけにビキニ被ばく事件は、歴史の中の遠い話でなく、自分が住んでいる室戸と関係する身近な話で、私自身も無関係ではない話だと気づかされた」(自治体職員)

- 「今まで私の中で近代史のごく一部という認識だったビキニ水爆実験が、色のついた映像になり、元漁船員・遺族の方の中で、今でも脈打つ当時の記憶の一端を共有したような感覚を覚えました」(大学生)



汚染された大量のマグロを棄ててに行った

フィールドワーク幡多コース(3/6) 「事件を身近にリアルに感じた」



幡多コースは、高知大生や東京、兵庫など県外や県内参加者と、元漁船員ら39名が交流しました。

元漁船員は「28人の仲間のほとんどが肺癌、肺・皮膚がんなどで亡くなった」と証言しました。参加者から「元船員の二人の証言は膝がひとつ前にのめりこむ思いで聞いた」

高知大生は、ゼミで遺族の証言や紙芝居を見て、このフィールドワークに参加し「事件を身近にリアルに感じた」と感想を述べました。

映画会：映画「第五福竜丸」(監督：新藤兼人)では、当時の過酷なマグロ漁と、第五福竜丸がアメリカの水爆実験によって被ばくし、そして原水爆反対運動へとつながる歴史を学びました。映画「その次の季節」(監督：甫木元空)では、高知の元マグロ船員が語る生々しい被ばくの体験と、その後の苦難の生活を丹念に記録した貴重な証言記録映画でした。